

「比類なき大学」の実現を目指して

第20代 北海道大学総長 寶金 清博

世界で猛威をふるう感染症、次々と襲いかかる自然災害、経済の低迷とIT化の進展—果たして、これほどの速さで時代が変化したことがあったでしょうか。北海道大学は考えます。いまこそ、私たちも同じスピードで変わらなければならない、と。まだ見たことのない地平へ、未知の領域へ。私たちは「比類なき大学」の実現を目指して、近未来戦略を策定し、不断の自己改革を推進していきます。

2020年10月に発足した現執行部は、全力で、教育・研究・社会連携を進めています。2022年度には国立大学法人として第4期中期目標期間を迎えます。従って、その助走としてこの2021年度は極めて重要な一年と考えています。今年のビジョンは、2022年度へ、さらに、2026年に迎える創基150年に繋がるものとしてご理解ください。4つのビジョンを紹介します。

VISION 1 「比類なき大学」へ

北海道大学は、1876(明治9)年の開学以来、間もなく創基150年を迎えようとしています。その基本理念は、①フロンティア精神、②国際性の涵養、③全人教育、④実学の重視という4つの理念に結実し、私たちにとって凧の朝も嵐の夜も確かな海路を示す灯台となっています。

その歴史と発展を振り返ると、他の主要な大学とは峻別される独自性があります。第一に、明治初期の創立時から、米国方式の全人教育・リベラルアーツ教育を中心として、外国人教師による英語のみの授業を導入したことに始まる「比類なき教育」です。これは、当時の日本の主要な大学が英国・ドイツの大学の専門性を重視した教育制度を基盤としたことと比較して、大きな特徴であり、これが「全人教育」「国際性の涵養」に直結しています。

第二には、「比類なきキャンパス」です。開校時の小さな農学校は、佐藤昌

介校長(後の初代総長)に代表される先人の偉大な努力の結果、現在では、世界でも有数の規模のキャンパスへと発展を遂げました。何より大都市の大きなキャンパスだけではなく、世界最大規模の研究林、そして海洋研究施設など、比類なき多様性に満ちたキャンパスを彩り、北大を「比類なき大学」として輝かせてくれます。

先人が作り上げてきたこの二つのレガシーを継承し、私たちは創基150年に向けて、新しい形を目指し、「比類なき大学」として社会からリスペクトされる公共財を目指しています。

VISION 2 イノベーションの 起点へ

国立大学は、法人化から18年目に入り、2022年度には第4期中期目標期間の開始という大きなターニングポイントを迎えます。従って、「比類なき大学」として唯一無二の大学であると同時に、他大学と共通のプラットフォームでの「競い合い」の中での成長が必須です。


そこで、多くの改革が進行中ですが、何より経営改革を加速します。大学

は、国費が投入される公共財であると同時に、自律的に財源を強化して、さらに、これまでとは異次元の高いレベルでの社会連携・産学連携が求められます。教育と研究を社会連携に結び付け、地域と世界の課題解決に貢献するためには、絶対的な2つの要件があります。それは、①秀逸な教育・研究であり、②これをイノベーションの起点とするためのエコシステム(自律的持続的仕組み)の構築です。


この実現のために、私たちは、「未来戦略本部」を中心とする6つのポートフォリオを作成し、これを常にアップデートしながら、第4期に向けて、力強い中期目標・中期計画を構築しています。

1.比類なき教育

明治初期から全人教育・リベラルアーツ教育を中心とした外国人教員による英語授業



1876年 W.S.クラーク初代教頭
1879年 アメリカ人教員



ひと
人材は北から世界へ
北大・新渡戸カレッジのグローバルリーダー教育
Nitobe College
2013年 新渡戸カレッジ開校

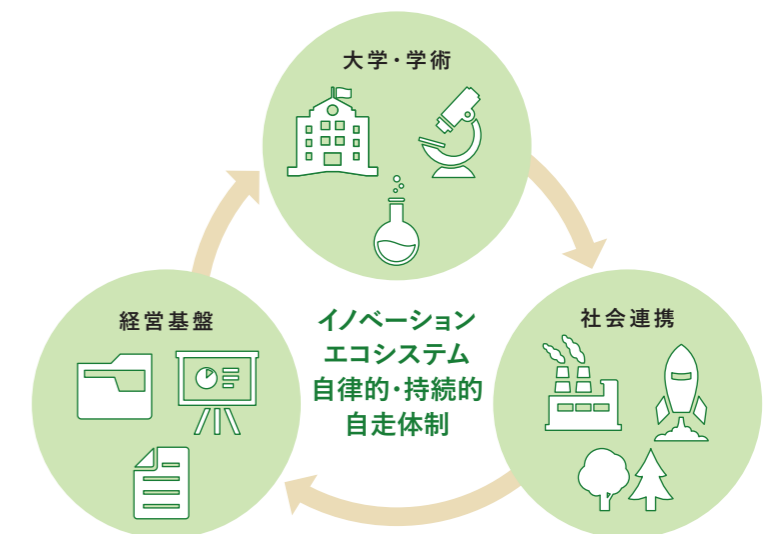
2.比類なきキャンパス

1876年8月14日 開校当日の農学校



研究林
函館キャンパス
臨海実験所
札幌キャンパス

社会の公共財・イノベーションの起点



VISION
3
6つの
ポートフォリオ

「比類なき大学」として、そして、イノベーションの起点として世界と地域の課題解決に貢献するために、私たちは2021年、6つの方針を実行しています。それは、アップデートされるものですので、いわゆるポートフォリオと考えています。以下に6つのポートフォリオを示します。それぞれは、ESG (Environment, Society, Governance) の観点に立つものです。

(1) 確かなパートナー「北大」へ

大学としてのガバナンスを確かなものとするため、監事の監査機能の強化、総長業務執行の評価体制強化、IR (Institutional Research) によるデータ駆動型の経営、「物言う」経営協議会の

強化、ステークホルダーとの対話体制を完成させます。

(2) 「北大」を先導する未来戦略本部

常置組織だけでは解決できない課題に対応する、機動性の高い「企画・立案組織」である「未来戦略本部」が改革を先導し加速します。7月現在、①DX (デジタルトランスフォーメーション) 検討部会、②経営的収入検討部会、③大学院改革検討部会、④大学憲章策定検討部会、⑤SDGs推進検討部会、の5つの検討部会が設置されています。

(3) 動く「北大」へ

— 制度改革・働き方改革

新年俸制度導入・業績給の制度設計、多様性のある人事制度の確立 (年齢構成の適正化、若者や外国人・女性の雇用促進) など大胆な制度改革を導入し、DXと教職協働を進め、働き方改革と生産性向上を実現します。

(4) 自律的エコシステム「北大」へ

— 財務強化

経営的収入 (遊休資産運用、ベン

チャーキャピタル、大学債)、産学連携体制強化のための人員増強、東京オフィスの機能強化、海外との産学連携強化を進め、財政基盤を強化し、自律・自走のエコシステムとしての大学法人を目指します。

(5) 広げる・拡がる・繋がる「北大」の連携

「教育」「研究」「起業」「地域貢献」を通じて、地域と世界のために組織改革を行います。また、海外の大学・国際機関、国内の大学・官公庁・企業・地域コミュニティ、同窓会、メディアなどの多様な関係者との多様な連携・協力関係の構築を推進します。

(6) 世界の課題解決に貢献する

「北大」へ

北大の多彩な研究領域の中でも特に輝くものとして、海洋・研究林などのフィールド研究や環境研究などがあり、世界の課題である気象変動に対する脱炭素社会実現に貢献するものです。これらの基盤を中核として、北大は地域と世界の課題解決に貢献します。

VISION
4
SDGs・脱炭素を
支えるアカデミアへ

世界の叡智が熟考を重ねた「世界の課題」はSDGsとしてまとめられています。従って、世界の課題解決に貢献することを究極のミッションとしている北大にとって、もう一つの灯台は「SDGs」

です。

北大が「比類なき大学」である最大の理由は、札幌キャンパスをはじめとした広大なキャンパス、研究施設・研究林です。四季の変化に富む美しい緑のキャンパスの価値を高める施策として、キャンパスマスタープランと連動しながら、施設全体をSDGs・脱炭素での実践の場として提案することを目指します。

SDGsを達成するためには、組織

としての北大が、前述のESGの観点から優れた存在にならなければなりません。それは、学生・教職員のマインドセットを変えることが大前提であり、痛みを伴い、先行的なコストも発生するものです。この実現には、ここで述べたビジョン2・3の力強い実行が必須です。

総力を挙げて、こうした総合ビジョンを進め、北大の「光」は「北」から、「北」から「世界」を目指します。

「比類なき大学」としての社会貢献・世界課題解決に貢献

旧昆虫学及び養蚕学教室 (1901年～) 古河講堂 (旧林学教室1909年～) 旧図書館 (1902年～)

脱炭素・気候変動対応
SDGs-ESG

<p>1 確かなパートナー 「北大」へ</p> <p>堅牢／透明なガバナンス・ IRデータ駆動型経営</p> <p>G ガバナンス</p>	<p>2 「北大」を先導する 未来戦略本部</p> <p>大学院改革・融合研究創出</p> <p>G ガバナンス</p>	<p>3 動く「北大」へ — 制度改革・働き方改革</p> <p>DX・年俸制／業績給・教職協働</p> <p>G ガバナンス</p>
<p>4 自律的エコシステム 「北大」へ— 財務強化</p> <p>経営的収入・産学連携強化</p> <p>S 社会</p>	<p>5 広げる・拡がる・繋がる 「北大」の連携</p> <p>地域貢献・起業・ ポストコロナのグローバル化</p> <p>S 社会</p>	<p>6 世界の課題解決に 貢献する「北大」へ</p> <p>フィールド研究・SDGs・ 脱炭素／気象変動</p> <p>E 環境</p>

ESG / Environment 環境 / Society 社会 / Governance ガバナンス

